

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

1. 現状の説明

(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

【評価の視点】

- ・教育目標に基づき学位授与方針が定められているか
- ・修得すべき学習成果の明示

<1> 大学全体

- 1) 本学学生として、どのような学修成果を上げれば学位を授与されるかという大学全体の学位授与方針（以下、ディプロマポリシー）を以下のとおり定め、ホームページに掲載している。
（資料4-1-1 順天堂ホームページ 「情報公開（基本情報）」 「修学上の情報」）

《ディプロマポリシー》

本学は、各学部・大学院研究科において、学是「仁」（人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心、これ即ち「仁」と理念「不断前進」（現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力し続ける姿勢）に則り、それぞれの人材養成の目的及び教育研究上の目的を設定しております。これらを踏まえて編制された教育課程に基づき、所定の期間に在学した上で、所定の単位を修得し、その他の基準にも合格した者に対し、課程毎に次のとおり学位を授与します。

<学士課程>

学士課程においては、学則における各学部規程に定める基準を満たした者に対し、卒業資格の認定を行い、学士の学位を授与します。

<大学院課程>

大学院においては、課程毎に定める基準を満たすとともに、学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対し、その課程に応じ所定の学位を授与します。

- 2) 各学部・大学院研究科においても、大学の理念・目的、人材養成目的及び大学全体のディプロマポリシーを踏まえて、それぞれのディプロマポリシーを定め、ホームページに掲載している。
（資料4-1-1 順天堂ホームページ 「情報公開（基本情報）」 「修学上の情報」）
- 3) 本学において授与する学位、論文審査及び試験の方法その他学位に関する必要な事項は「順天堂大学学位規程」に定めている。
（資料4-1-2 順天堂大学学位規程）

<2> 医学部

- 1) 本学部では、教育目標に基づきディプロマポリシーを以下のとおり明示している。

《ディプロマポリシー》

教育目標に沿って設定された各年次のカリキュラムを履修し、人材養成目的を踏まえた知識・技能が各年次の試験（総合試験等）及び実習等の判定試験と6年次の卒業総合試験により、修得できたかを厳密な判定基準に基づき判断し、合格することを卒業（学士認定）要件としている。

医学部では、以下の到達目標に達した者に学士（医学）を授与する。

- ①科学的根拠に基づいた医学・医療を行うための体系的な知識と確実な技術が身につけている。
- ②不断前進する医学・医療を生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を身につけている。
- ③常に相手の立場に立って物事を考え、高い倫理観を持ち、人間として、医師・医学者として他を慮り、慈しむ心（学是「仁」）が涵養されている。
- ④チーム医療・研究を円滑に遂行できる能力と習慣が身につけている。
- ⑤グローバル化する国際社会における諸問題に多面的な視点から対処し、解決できる能力と未来

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

を切り開く人間性溢れる豊かな教養が身についている。

- 2) また、教育成果、学習成果、または知能・技能・態度を包含した実践力をまとめたものとしてコンピテンシーを以下のとおり定め、2016(平成28)年度より運用すべく学生に周知している。

順天堂大学医学部 コンピテンシー

1. 診療技能・患者ケア
 - a. 成人及び小児・高齢者の基本的な医療面接・身体診察と臨床手技を適切に実施できる。
 - b. 診断・治療・全身管理に積極的に参加できる。
 - c. 患者・家族の思いや苦しみを理解し最善の医療に参加できる。
 - d. 病状説明・患者教育に参加できる。
2. 医学的知識
 - a. 各臓器の構造と機能を理解し、説明できる。
 - b. 各臓器の異常に基づく病態や臨床症候について概説できる。
 - c. 発達、成長、加齢に関する知識を有し、応用できる。
 - d. 臨床推論により疾患を鑑別でき、診断に必要な検査と治療内容を計画できる。
 - e. 基礎医学と臨床医学の知識を連携させて症状・疾患を理解できる。
 - f. 最新のエビデンスに基づく医学・医療情報を理解・応用することができる。
3. 医療安全
 - a. 正確な医療知識・技術が医療安全につながる事が理解できる。
 - b. インフォームド・コンセントを理解し実践できる。
 - c. 個人情報の扱いの重要性を理解し、適切に管理・運用できる。
 - d. 感染予防対策の適切な方法・プロセスを理解し、実践できる。
 - e. 問題を起こしやすい状況とその対応を理解し、情報共有ができる。
 - f. 自己の健康管理ができる。
4. チーム医療
 - a. 医療チームの一員として積極的に参加できる。
 - b. 他職種の職務内容とチーム医療を理解し、必要な知識を有し、連携することができる。
 - c. 患者の抱える問題を理解し、医療スタッフと情報交換できる。
5. コミュニケーション
 - a. 一般社会人として信頼関係が構築でき、情報共有ができる。
 - b. 医師や他の医療職種、患者、家族と良好なコミュニケーションがとれる。
 - c. プレゼンテーション能力や人を指導・教える能力を有し、応用できる。
6. 医療の社会性
 - a. 行動科学、社会医学を理解し、医療制度を概説できる。
 - b. 患者・国民のニーズを理解し、必要な医療と医療制度を概説できる。
 - c. 地域医療のシステム、現状、問題点、プライマリ・ケアの役割を理解できる。
7. 倫理とプロフェッショナリズム
 - a. 医の倫理・生命倫理および患者の権利について理解し行動できる。
 - b. 倫理・法律に反しない行動ができ、利益相反について理解できる。
 - c. 患者の立場と心理を理解し、双方にとっての最善の結果が得られる医療を提案できる。
 - d. 社会資源を使って育成されていることを認識し、医療人としての責任感をもって行動できる。
8. 自立的学習能力
 - a. 自分の目標に向けた学習ができる。
 - b. 適切な情報収集ができ、活用できる。
 - c. 後輩・同級生を指導することで自らも学ぶことができる。
 - d. 医学研究に対する興味を高めることができる。

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

9. 順天堂大学医学部出身者としての誇りと責任
- 順天堂大学出身者として、思いやりを持った行動ができる（寮生活などの共同生活経験を含む）。
 - 医の歴史を理解した上で、医学・医療の発展をめざすことができる。
 - 健康に与える運動の影響を考慮した医療を提言できる。
 - 国際的に活躍できる語学力、医療能力を身につける（TOEFL・IELTS・USMLE 対策、交換留学などを含む）。

〈3〉 スポーツ健康科学部

1) 本学部では、教育目標に基づきディプロマポリシーを以下の通り明示している。

《ディプロマポリシー》

スポーツ健康科学部では、寮生活や各種の実習等での協働により、対人調整力をはじめとしたコミュニケーション力と倫理観を涵養するとともに、スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養を習得し、それらを応用し表現する能力を養うことにより教育、ビジネス、福祉などさまざまな分野における新たな時代の職業ニーズに対応できる人材の育成を目標とする。その共通目標のもと、以下に学科が定める具体的な人材養成目的に沿って配置された科目から所定の単位を修得した学生に学士の学位を授与する。

【スポーツ科学科】

スポーツ科学科では、スポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識を習得することにより、医学的知識を備えたスポーツ指導者やスポーツ指導現場に詳しいスポーツ医科学研究者を育成することを目標とする。

以上に掲げた目標を達成し、所定の単位を修得した者に、『学士（スポーツ科学）』の学位を授与する。

【スポーツマネジメント学科】

スポーツマネジメント学科では、経営学・社会心理学・社会学を応用したスポーツマネジメント学についての知識を習得することにより、ビジネス対象としてのスポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面からマネジメントできる創造性の高い人材、またグローバル社会に貢献できる人材の育成を目標とする。

以上に掲げた目標を達成し、所定の単位を修得した者に、『学士（スポーツマネジメント学）』の学位を授与する。

【健康学科】

健康学科では、人の健康を身体的・精神的・社会的健康の各側面から捉え、健康学についての知識と実践的な技能を習得することにより、養護教諭、特別支援学校教員、精神保健福祉士、衛生管理者などの健康的な社会づくりのための専門性の高いリーダーとなる人材の育成を目標とする。

以上に掲げた目標を達成し、所定の単位を修得した者に、『学士（健康学）』の学位を授与する。

〈4〉 医療看護学部

1) 本学部では、教育目標に基づきディプロマポリシーを以下のとおり明示している。

《ディプロマポリシー》

学是である「仁」の精神の下に、看護専門職者として下記の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生を本学が求める看護専門職者として認め、学士（看護学）の学位を授与する。

- 看護専門職者として患者・家族・協働する専門職者に対し、相手の尊厳を守る姿勢と思いやり、慈しむところをもって関係性を構築する能力
- 文化の多様性に基づいた国際的視野を持ち、看護専門職者としての活動の場と役割を理解することができる能力

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

- ③人々の健康に関する問題・課題に対し、自らそれらに取り組もうとする姿勢を持ち、生涯を通して自らを高めることができる能力
- ④多様な社会や文化、価値観、対象者の背景からニーズを理解し、保健・医療・福祉の統合した視点をもって看護専門職者としてなすべきことが判断できる能力
- ⑤自ら広い教養を身につけ、専門知識に基づいた技能をもち、看護専門職者として責任をもった行動する能力

<5> 保健看護学部

1) 本学部では、教育目標に基づきディプロマポリシーを以下のとおり明示している。

《ディプロマポリシー》

保健看護学部は4年以上在学し、学是である「仁」の精神を基盤に、「心身を癒す看護実践能力を修得する」という学部の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修し、下記の能力を身につけ、所定の単位を修得し、卒業試験に合格した学生を本学が求める看護専門職者として認め、学士（看護学）の学位を授与する。

- ①看護職者として相手の立場に立って思考し、相手に安心感を抱かせる態度をとれること
- ②身につけた看護基礎能力および看護実践能力が科学的根拠に基づいたものであること
- ③保健・医療・福祉分野を総合した視点をもって、応用力を発揮し、創意工夫する態度・習慣が見られること
- ④自らの健康維持増進に留意して行動的に学習し続け、生涯学習・自己研鑽能力及び研究的態度が見られること
- ⑤語学力の向上と共に異文化を理解し、看護職者の国際的活躍の場と役割を理解することができること

<6> 国際教養学部

1) 本学部では、教育目標に基づきディプロマポリシーを以下のとおり明示している。

《ディプロマポリシー》

国際教養学部では、本学の学是「仁」の精神を基本理念に、「グローバル市民の育成」という教育目標に沿って設定されたカリキュラムを履修して下記の到達目標に達し、所定の単位を取得した学生に、「学士（国際教養学）」の学位を授与します。

- ①グローバル化が進む国際社会における人間とその社会的、文化的な営みを包括的に理解するため、自然と人間、生命と健康、人間と社会、世界と日本など国際教養に関わる広範な知識を習得し、それらを統合し、活用する能力
- ②自分とは異なる人間や文化を理解しようと心を開き、多様性を尊重し、寛容さをもって相互交流を図ることのできる能力
- ③母語そして外国語でのコミュニケーション能力を駆使し、多様な人々と繋がり、自らの考えを論理的に説明し、相互の関係を築く能力
- ④グローバル市民として活躍する為の基盤となる国際的な教養に加え、文化を超えて活躍できる専門性（グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービス領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策をさぐる多面的かつ柔軟な思考力と行動力

<7> 大学院医学研究科

1) 本研究科では、教育目標に基づきディプロマポリシーを以下のとおり明示している。

《ディプロマポリシー》

【医科学専攻（修士課程）】

医科学専攻（修士課程）では、研究科の定める期間在学し、課程設置の趣旨と人材養成目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得し、研究科が行う修士論文の審査及び試験に合格することが学位授与の要件である。

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

- (DP1)：医科学分野における、十分な基礎知識を修得するとともに、医科学修士修了者として必要な医療倫理知識を修得する。
- (DP2)：基礎・臨床の専門的知識を多様な研究者の指導により修得し、研究の幅を広げながら、最先端の医療・医学の知識を取得する。
- (DP3)：知識の専門性を高め、基礎医科学研究の幅を広げながら修士論文を作成する。

【医学専攻（博士課程）】

医学専攻（博士課程）では、標準修業年限（4年）在籍して、体系的教育コース（コアプログラム）および専門領域における研究指導コース（専門プログラム）合計で30単位以上を修得し、さらに査読のある国際的学術誌に筆頭著者として公表した原著論文についての学位審査および最終試験に合格することが、学位授与の必要要件である。ただし、評価の高い国際雑誌に論文を発表し、高度の研究能力その基礎となる豊かな学識を確認できた場合には、3年修了のときに学位試験を受験することができる。

- (DP1)：医学研究および臨床研究に必要な基礎的な知識、技術および研究を企画・遂行できる能力を修得する。
- (DP2)：大学院生が希望する研究領域の研究室における個人指導によって自ら研究プロジェクトを遂行し、新たな分野を切り拓く能力を身につける。
- (DP3)：自立した研究者として、先進的な医学を追及する国際的な若手研究者、また高度な先端医療を開発しうる指導的な人材となる能力を身につける。

〈8〉 大学院スポーツ健康科学研究科

1) 本研究科では、教育目標に基づきディプロマポリシーを以下のとおり明示している。

《ディプロマポリシー》

スポーツ健康科学研究科は、建学の理念および教育目標のもと、スポーツと健康の科学的研究と高い倫理観に基づき、人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践的かつ創造的な人材を育成する。

【博士前期（修士）課程】

博士前期（修士）課程では、研究科の定める期間在学し、教育目的に沿って配置された授業科目を履修して所定の単位を取得し、スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識を身に付けるとともに、研究指導を受けて研究能力の修練を図り、修士論文あるいは課題研究の審査と試験に合格して課程を修了することが学位授与の条件となります。

【博士後期（博士）課程】

博士後期（博士）課程では、研究科の定める期間在学し、教育目的に沿って配置された授業科目を履修して定められた単位を取得するとともに、研究指導を受け、高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行い、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて、所定の修業年限内に博士論文の審査と試験に合格することが学位授与の条件となります。

〈9〉 大学院医療看護学研究科

1) 本研究科では、教育目標に基づきディプロマポリシーを以下のとおり明示している。

《ディプロマポリシー》

【看護学専攻（博士前期課程）】

標準修業年限（2年）在籍し、修了要件となる単位を取得するとともに、修士論文又は課題研究論文の審査及び最終試験に合格し、下記の条件を満たすものに学位（修士（看護学））を授与する。

- ① 高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力を修得している。
- ② 高い倫理観を身につけ複雑な倫理的問題を探究し対処できる能力を修得している。
- ③ 看護学の専門分野に関する研究に取り組み、研究能力を修得している。

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

④高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会に貢献できる能力を修得している。

【看護学専攻（博士後期課程）】

標準修業年限（3年）在籍し、修了要件となる単位を取得するとともに、博士論文の審査及び最終試験に合格し、下記の条件を満たすものに学位（博士（看護学））を授与する。

- ①高い学識および高度な実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力を修得している。
- ②卓越した専門性と倫理観を有し、指導者、管理者、教育者、研究者として学際的・国際的に、学術交流、保健医療活動に貢献できる能力を修得している。

(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

【評価の視点】

- ・教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
- ・科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示

〈1〉 大学全体

- 1) 大学全体として、ディプロマポリシーの達成のため、教育課程編成、教育内容・方法、期待される学修成果を示した教育課程の編成・実施方針（以下、カリキュラムポリシー）を次のとおり定め、ホームページに掲載している。

（資料4-1-1 順天堂ホームページ 「情報公開（基本情報）」 「修学上の情報」）

〈カリキュラムポリシー〉

〈学士課程〉

学士課程においては、次の項目を踏まえ、多様でかつ調和のとれた教養教育（リベラルアーツ教育）と高度な専門教育とを有機的に関連付け、各学部学科の特色を生かして体系的に編成されたカリキュラムに基づき、講義・演習・実習等を適切に組み合わせた授業を展開します。

- ①人間的成長を目指し、幅広く深い教養、豊かな感性、強い責任感及び高い倫理観を身に付けさせる。
- ②社会で指導的な役割を果たせるよう、高度な専門的知識や論理的な思考力及び確かな技能を修得させる。
- ③国際社会において活躍ができるよう、その基礎となる外国語能力や異文化理解能力及びコミュニケーション能力を養成する。
- ④能動的学習形態を取り入れた授業を展開し、社会の変化に際し、自主的・積極的に対応できる能力を獲得させる。

〈大学院課程〉

高度な知識・技能などを修得させるため、専攻分野のカリキュラムを体系的に編制するとともに、きめ細かい研究指導を行います。

修士課程・博士前期課程においては、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を修得させるため、各専攻分野の目的に沿ったカリキュラムに基づく授業及び研究指導を展開します。

博士課程・博士後期課程においては、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得させるため、各専攻分野における先進的かつ国際的に評価される研究成果の獲得を目指した研究指導を展開します。

- 2) 各学部・大学院研究科においても、大学全体のカリキュラムポリシーを踏まえ、それぞれがディプロマポリシーで示した学修成果の獲得を期待できるカリキュラムポリシーを策定し

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

ており、教育方法等の基本的な考え方をまとめて、ホームページに掲載している。

(資料4-1-1 順天堂ホームページ 「情報公開(基本情報)」 「修学上の情報」)

3) 科目区分、必修・選択の別、単位数等については、学則・大学院学則・各研究科規程で規定し、シラバスに明示している。

(資料4-1-3 医学部教育要項)

(資料4-1-4 スポーツ健康科学部シラバス)

(資料4-1-5 医療看護学部教育要項)

(資料4-1-6 医療看護学部履修要項)

(資料4-1-7 保健看護学部教育要項)

(資料4-1-8 国際教養学部教育要項)

(資料4-1-9 大学院医学研究科修士課程シラバス)

(資料4-1-10 大学院医学研究科博士課程シラバス)

(資料4-1-11 大学院スポーツ健康科学研究科シラバス)

(資料4-1-12 大学院医療看護学研究科教育要項)

〈2〉 医学部

1) 本学部では、教育目標に基づきカリキュラムポリシーを以下のとおり明示している。

〈カリキュラムポリシー〉

医学部の人材養成目的「人類の健康・福祉に寄与できる専門的な知識、技術を身につけ、「科学者」の視点をもちつつ、感性豊かな教養人としての医師・医学者を養成することを目的とする。」の下で、卒前卒後一貫教育を目指し、以下のカリキュラムを編成する。

- ①科学的根拠に基づいた医学・医療・研究を行うための体系的な知識と確実な技術を身につけるため、1年次に少人数による特定の課題を議論と思考で進めるPBL(Problem based learning)を行い、全学生のモチベーションおよび課題探求力・分析的評価能力の向上を図っている。2年次以降の専門科目においては、生命科学、基礎医学、臨床医学を関連づけ、体系的に学び、医学への探求心を養うため、臓器別・病態別の統合型カリキュラムを採用している。知的な好奇心や知的な感動を与える授業を重視しており、学生による授業評価により教員の教育力向上を図っている。
- ②3年次には、科学的思考能力を高め、生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を涵養する小グループ制の基礎ゼミナールを設定している。この課程で、将来研究者を目指す者は、研究医養成コースが設けられている。
- ③常に相手の立場に立って物事を考え、人間として、医療人として他を慮り、慈しむ心、即ち学是「仁」の心を涵養するため、1年生全員を学生寮に1年間入寮させ、集団の中での個の確立と、学是「仁」の涵養を寮生として実践実習する。さらに、入学後の早い時期から病院実習、外来案内実習、看護実習、小児科実習、施設実習、診察技法実習等の体験実習を行っている。医療職の一員として医療に参画することによって、多様な職種との連携や共同作業を行えるパートナーシップ能力の涵養を目指している。とくに、4年次後半からの本格的な臨床実習では、それぞれ特徴的な機能をもつ医学部附属6病院で、患者を受け持ち、実際に医療サービスに加わることによって、臨床能力を身につけることをもめている。
- ④国際社会に役立ち、豊かな教養を養うため、教養教育を重視するとともに、TOEFL(IELTS)など実践英語を高学年まで課している。6年次の臨床実習では、海外でも(2~8週間、留学先は自ら選べる)行うことができる。

〈3〉 スポーツ健康科学部

1) 本学部では、教育目標に基づきカリキュラムポリシーを以下のとおり明示している。

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

《カリキュラムポリシー》

スポーツ健康科学部では、「スポーツと健康」に関連する教育、ビジネス、福祉などの分野における専門性を持った教養人を養成するため、学部共通科目を設置し、所属学科以外の科目の相互履修を義務化しているほか、学部で開講されるゼミを含むほぼ全ての科目、医学部開講の一部科目を履修可能とし、学生の興味・関心に応える自由度の高い教育システムを採用している。1年次には、人文・社会・自然科学および語学の基礎的教養科目に加え、学科ごとの基礎的科目を、2年次以降はより専門性の高い知識とスキルを身につけるための科目を配置する。全学科で必修のゼミナールでは、丁寧な個別指導によって、身につけた知識やスキルを統合し、各専門分野での探究力を深化させ、他者への伝達力を養成するために卒業論文を課す。

【スポーツ科学科】

スポーツ科学科では、スポーツに関わる事象の原理を主として自然科学的に理解・究明・表現できる人材を育成することを目指し、1年次にはスポーツ医科学およびコーチング科学の基礎的科目を配置する。各自の学習目標と進路の違いに対応するため、2年次からは、コーチング科学コース、スポーツ医科学コースにおいて、それぞれ以下の知識や能力を身につけるための専門性の高い科目を配置する。

◇コーチング科学コース

- ①スポーツに関わる諸科学の知見に基づく知識と方法を理解し、運動プログラムおよび運動技能の研究開発に応用できる力を身につける。
- ②初心者からトップアスリートまでの競技力向上および人々の健康・体力づくりに必要な系統的・段階的な指導の知識と技術を身につける。

◇スポーツ医科学コース

- ①スポーツに関わる諸事象を観察、実験および数理モデルを用いて客観的に秩序正しく記述・説明することを通して、自然科学的立場からスポーツを理解する力を身につける。
- ②科学的根拠に基づいた種々のトレーニングや健康・体力づくりに関する知識と方法を正しく理解し、競技力向上や人々の日常生活に応用できる能力を身につける。

【スポーツマネジメント学科】

スポーツマネジメント学科では、スポーツの経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」に関する基礎的知識を修得した上で、少人数による演習やインターンシップに参加できるように科目を配置し、さらにきめ細かな指導による専門性の高い科目を履修できるように段階的、体系的にカリキュラムを編成する。1年次には、スポーツマネジメントの大まかな枠組みと関連分野の基礎学問の修得を目指す。2年次からの各論では、経営資源のいずれに興味を持つかにより専門科目を選択し、それぞれの側面から現状の問題点の把握、改善策について問題を掘り下げる能力を身につける。

【健康学科】

健康学科では身体的・精神的・社会的健康に関する科学的な知識を習得し、人々の健康づくりと健康支援に必要な技能を育むべく専門性の高い科目を体系的に配置してある。1年次では、「健康づくり」と「健康支援」についての科目を配置し、2年次からは現代日本における教育・社会・環境・精神保健・福祉などの各論を配置することにより、健康を創造・支援できる能力を身につける。さらに「健康に関する専門的職業人」を目指し、養護教諭、特別支援学校教員、精神保健福祉士、衛生管理者など職業に結びつく資格を取得できるプログラムを編成している。

〈4〉 医療看護学部

1) 本学部では、教育目標に基づきカリキュラムポリシーを以下のとおり明示している。

《カリキュラムポリシー》

医療看護学部の人材養成目的「学是である「仁」の精神に基づき、安心・安全で質の高い看護を提供し、さらに高度先進医療の一翼を担うことができる高い倫理観を兼ね備えた看護職者（看護師・保健師・助産師）の育成」を目指して、以下のカリキュラムを編成しています。4つの科目群「人間

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

と教養」・「人間の健康」・「看護の理論と方法」・「医療看護の統合と発展」からなるカリキュラムを編成し、段階的に理解を深めるようにしている。さらに、カリキュラムを充実させるため、医学部・スポーツ健康科学部・保健看護学部の3学部、6つの医学部附属病院群と連携し、学びを深められるようにしている。

- ①人間に対する深い洞察力と幅広い教養を身につけながら、正常な人体の構造と機能を学ぶ科目「人間と教養」を設置し、1年次から高学年までくさび形で配置。
- ②健康を支える生活や社会の仕組みを理解し、看護実践に必要な臨床医学の知識・技術を習得する科目として「人間の健康」を編成。
- ③看護実践に必要な知識、技術および態度を修得する科目「看護の理論と方法」を1年次から早期実習体験し、看護実践能力の段階的向上を図っている。
- ④これらの科目群の学びの上に最終的に看護の統合と発展「医療看護の統合と発展」を設置。カリキュラム全体を通して、人間理解と生命の尊厳に対する畏敬の念をもち、保健・医療・福祉の各分野における看護のありかたや他の専門職者との連携について学習し、実習を通して、看護実践能力の向上を図れるように編成しています。
- ⑤さらに、異文化を理解し、国際的な視野を培えるような科目を置き、希望者は海外研修ができます。
- ⑥医療看護研究は3段階に分けて学び、理解を深められるようにし、論理的および科学的思考の能力を高められるようにしています。
- ⑦保健師・助産師に関する科目は、看護職者として必要な基礎的知識を見つけるのに必要な科目であり、国家試験受験資格取得にかかわらず選択・受講することができるよう配置しています。

<5> 保健看護学部

1) 本学部では、教育目標に基づきカリキュラムポリシーを以下のとおり明示している。

《カリキュラムポリシー》

保健看護学部の教育課程は、「人間と教養」「人間の健康」「看護の理論と方法」「保健看護の統合と発展」の4つの科目群により構成され、段階的に理解力が深められるように工夫しています。

- ①人間性に対する深い洞察力を養う授業科目を初めに置き、健康を支える生活や社会の仕組みを理解し、看護実践に必要な知識・技術および態度を習得する授業科目へ進み、次いで保健看護の総合と発展を考えるように編成しています。
- ②人間を理解し、生命倫理・環境倫理の上に立って、保健・医療・福祉の各分野における看護のあり方や他の専門職者との連携について学習し、実習を通して看護実践能力の向上を図るよう編成しています。
- ③地域社会や国際的に活躍できるよう、語学教育を通じて、その基礎となる国内外の保健活動の理解力を図るよう編成しています。
- ④看護職者に必要な生涯学習・自己研鑽能力及び研究的態度を、ゼミナール・看護研究等を通じて修得するよう編成しています。

<6> 国際教養学部

1) 本学部では、教育目標に基づきカリキュラムポリシーを以下のとおり明示している。

《カリキュラムポリシー》

国際教養学部では、学是「仁」の精神を基本理念に、「グローバル市民」を育成する教育課程として、4年間にわたる国際教養教育を次の通り編成します。

- ①国際的な広がりをもつリベラルアーツ（「日本と地域の理解」「人間と社会の理解」「自然と科学の理解」「職業とキャリアの理解」）及び外国語を、文系、理系にとらわれない基盤科目として学びます。
- ②「グローバル市民」として求められる外国語によるコミュニケーション能力を習得できるよう、

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

本学部では「複言語主義」に基づき、国際英語科目以外に、もう一つの外国語としてフランス語、スペイン語、中国語の中から1言語を選び履修します。いずれも少人数による授業の中で、学生同士が切磋琢磨し互いに助け合いながら学ぶ「協同学習」を教育方法として活用します。単にスキルとして外国語を学ぶのではなく、内容と統合しながら習得するアプローチを採用し、評価にはCEFR（欧州言語共通参照枠）を用います。さらに、外国語学習の目的は異文化コミュニケーションにあることから、授業内で異文化コミュニケーションを学ぶ「言語文化アプローチ」を導入します。

3年次以降は、将来の進路を念頭に自主的に英語科目の学習ができる「目的別英語科目」を揃え、フランス語、スペイン語、中国語では選択科目として上級コースを配置します。希望者には海外留学の道が開かれており、異文化環境に身を置き多様なテーマについて学ぶ「海外研修プログラム」も教育課程外の取り組みとして設定します。

- ③グローバル化した世界の実情や課題を理解するため「グローバル社会」「異文化コミュニケーション」「グローバルヘルスサービス」という3領域が展開科目として設置されます。各領域に関する導入的な概論（合計6単位）を必修として履修し、その上で各自の関心に応じて1領域を選択し、当該領域に配置されている授業科目を16単位以上履修します。

「グローバル社会」では、経済活動のグローバル化、国際関係、エネルギー保全、食料・水の安全保障、気候変動、生物多様性など持続可能な未来へ向けてグローバル化をめぐる問題を広く学びます。「グローバルヘルスサービス」では、身体、生命・健康、生命倫理、病気の成り立ち、国際感染症、医薬品の安全、医療保険制度、そして高齢化社会など日本や世界が抱えている諸課題を考えながら学びます。「異文化コミュニケーション」では、文化と人間、言語と社会、言語／非言語とコミュニケーション、通訳と翻訳など、異質な文化とコミュニケーションが内包し表象する課題について深く理解し、多文化／多言語社会の構築に寄与する方を学びます。

同時に、グローバル社会に貢献し活躍するためさらなる理解を深められるよう、他の領域の授業科目についても領域横断的に科目を履修することにより、複眼的思考を可能にする知見を得られるような教育編成となっています。

- ④「国際教養概論～グローバル市民を目指して～」では専任教員によるオムニバス授業で、本学部が包摂する3領域の関係性および学際的分野の広がりを学びます。
- ⑤「基礎演習」では、少人数クラスに分かれ、前期は「プレゼンテーション」、後期は「ファシリテーション」を体験することで、グローバル市民として必須なコミュニケーション能力の基礎を培います。
- ⑥1年次から「文章表現法／論文・レポートの書き方」授業において3領域を中心とするさまざまな分野における多様な研究方法について学びます。その上で、3・4年次の「グローバル市民演習Ⅰ・Ⅱ」では、各自が選択した領域に関連する課題について研究し、場合によっては他領域での学びも組み込み、卒業論文を作成します。
- ⑦本学部では基盤としての国際教養科目、外国語科目、3領域に分かれての展開科目がすべて、多文化共生社会に貢献できる「グローバル市民」の育成を目指しており、一貫性を有した教育を行います。
- ⑧このような流れに沿った4年間の学修に加え、学生の社会的、経済的自立を促すキャリア教育の充実にも重点を置き、正規の科目として単位化するとともに、入学直後の初年度からカリキュラムとして編成します。
- ⑨本学部には教職課程が設置されていますので、指定された科目を履修し所定の単位を取得すれば、中学校および高等学校教諭（英語）一種免許を取得できます。

〈7〉 大学院医学研究科

- 1) 本研究科では、教育目標に基づきカリキュラムポリシーを以下のとおり明示している。

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

《カリキュラムポリシー》

【医科学専攻（修士課程）】

本専攻においては、医学分野以外の教育を受けた学生・社会人・外国人などに対し、医科学の基礎的知識を身に付け、更に専門的研究力を身に付けるための教育課程を編成する。

授業科目に関しては本専攻の設置の趣旨の観点から進学を希望するであろう医療関連企業従事者、病院勤務者、大学・研究所勤務者等の興味関心に対応したカリキュラム編成として構築する。

教育及び研究の特色として、本専攻における教育内容は、一般教育科目、専門教育科目、特別研究科目の3つで構成する。

【医学専攻（博士課程）】

医学専攻（博士課程）では、医学研究および臨床研究に必要な基礎的な知識、技術および研究を企画・遂行できる能力を修得させるコアプログラムを編成すると同時に、大学院生が希望する研究領域の研究室における個人指導によって、自ら研究プロジェクトを遂行し、新たな分野を切り開く能力を養わせる専門プログラムを編成している。

この基盤教育と専門教育からなる総合的な大学院教育によって、自立した研究者として、先進的な医学を追究する国際的な若手研究者を、また高度な先端医療を開発しうる指導的な人材を養成する。

①コアプログラムは、(1)共通教育コースの Basic Course、Research Support Course（1年次の大学院初等教育）および Advanced Course（2年次の研究プロジェクト遂行と学位論文作成のための基礎教育）(2)大学院実践教育コース（13のテーマから選択可能な基礎・臨床医学融合型のコースワーク、実践的な研究実行能力を育成）(3)大学院教育レクチャーシリーズは大学院特別講義（英語による講義を含む）、Current Topics（学内で開催される最先端の医学・医療セミナー）および E-learning 等のコースワークで構成されている。

②専門プログラムは、研究者養成コース（基礎系・臨床系）、高度臨床専門家養成コース（臨床研究）、スペシャリスト養成コース（感染制御専門家養成コース、次世代先導的がん研究者養成コース、健康・予防医学専門家養成コース）を置き、各コースはコースワークと専門研究で構成され、キャリアパスに応じ、コース間の乗り入れを可能としている。

③3年次後半に、学位論文の研究に関する中間発表を行い、審査員による評価と助言を受けると同時に研究の進捗状況が研究科委員会に報告される。

〈8〉 大学院スポーツ健康科学研究科

1) 本研究科では、教育目標に基づきカリキュラムポリシーを以下のとおり明示している。

《カリキュラムポリシー》

【博士前期（修士）課程】

博士前期課程では、スポーツ健康科学の専門家の養成に向け、つぎのような観点からカリキュラムを編成し、実施しています。

①運動やスポーツによって生じる心身の応答や適応、医学的諸問題、各スポーツ競技の指導論とその科学的根拠を総合的に学び、スポーツや身体教育分野における研究能力と高度な専門性を必要とする職業人を育てるために必要な科目を開講します。

また、得られた知識をもとに、学問的課題に論理的解答を与えるためのより高度な専門的研究法を修得させ、学問的成果を論理的にまとめる能力の醸成のため修士論文を課します。

②スポーツの社会・経済的な価値や機能、社会的効果にかかわる諸問題を社会科学的な手法で解明し、その実践的活用の方法論に関する知見と事例を学び、スポーツビジネス・スポーツ振興の分野における研究能力と高度な専門性を有する職業人を育てるために必要な科目を開講します。また、得られた知識をもとに、学問的課題に論理的解答を与えるためのより高度な専門的研究法を修得させ、学問的成果を論理的にまとめる能力の醸成のため修士論文を課します。

③ヒトの健康の保持・増進に必要な自然科学的専門知識や実験研究能力の涵養と、社会科学的専門知識や問題解決の手法・技術を習得するための講義を開講します。さらにこれらを基礎とし

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

て、ヒトと環境の調和を図るための実践力と、包括的なヘルスプロモーション・健康教育プログラムの開発力を意図した演習・実習を行います。また、得られた知識をもとに、学問的課題に論理的解答を与えるためのより高度な専門的研究法を修得させ、学問的成果を論理的にまとめる能力の醸成のため修士論文を課します。

【博士後期（博士）課程】

スポーツ健康科学研究科の中核的学問領域であるスポーツ科学、スポーツ社会科学および健康科学に関する研究の先鋭化と深化を図り、さらにこれらを総合するための講義や演習科目を開講します。その上で、研究指導教員および研究指導補助教員が、少数の学生に対して、修業年限内での博士論文作成を目指して濃厚な指導を行います。

〈9〉 大学院医療看護学研究科

1) 本研究科では、教育目標に基づきカリキュラムポリシーを以下のとおり明示している。

〈カリキュラムポリシー〉

【博士前期課程】

博士前期課程では、各専門専攻分野の高度な看護実践者、看護学教育者、看護学研究者を育成するために特別研究コースと専門看護師コースを置いています。特別研究コースでは看護学の理論とその構築に必要な研究能力を、専門看護師コースでは高度な実践能力と実践の場における研究能力が探求できるように教育課程を編成しています。

① 共通科目

特別研究コースと専門看護師コースの両コースにおける学修の基盤となる授業科目として設けています。

② 専門科目

各専門専攻分野の高度看護実践者、看護学教育者、看護学研究者を育成するために必要な授業科目となっています。

さらに、特別研究コースでは各専門専攻分野の科目に加え演習・特別研究を、専門看護師コースでは各専門分野の科目に加え演習・課題研究を置き、それぞれのコースにおいて高度な専門的研究法を修得させ、学問的成果を論理的にまとめる能力の醸成のため修士論文を課しています。

【博士後期課程】

博士後期課程での教育課程は、個人及び個人を支える家族や地域で生活する人々の看護支援、看護職者の教育支援の開発や看護提供システムの構築などについて、新たな分野を切り開く研究能力の養成を目指し共通科目、専門科目、演習・研究指導から編成しています。

① 共通科目

看護学の本質を探究できる能力に基づいた質の高い研究成果に結びつくことを目的としています。

② 専門科目

広範な健康問題や看護課題について実践的な研究が行えることを目的とし、看護学の知識や技術の検証、新たな理論や方法論の創設等、より高度な研究能力を身につけ、自らの研究テーマに関わる看護問題とその研究的アプローチを複数の専門領域の視座を通して学修し、学問的基盤を涵養します。博士前期課程(修士課程)の12分野をベースとして、個人及び個人を支える家族や地域で生活する人々の看護支援開発、管理システム及び教育支援について高度な学問的視座の修得を目指し10科目を設定しています。専門科目は2科目以上履修することとしています。

③ 演習・研究指導

看護系大学及び研究機関において教育・研究活動を担える教育者・研究者及び保健・医療・福祉の場で科学的視点を持ち教育・研究能力が発揮できる高度専門職業人に必要な研究の先鋭化と深化が図れる研究能力の修得を目指し、「看護学演習」「看護学特別研究」を設定しています。

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

【評価の視点】

- ・周知方法と有効性
- ・社会への公表方法

〈1〉 大学全体

- 1) ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーについては大学ホームページにて、教育目標については各学部・大学院研究科のホームページにて大学構成員への周知および社会への公表を行っている。

〈2〉 医学部

- 1) 本学部の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーは、大学構成員（教職員・学生等）および社会に対して、ホームページの他、教授会・医学教育卒後教育ワークショップ等の機会において、周知・説明を行っている。

〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 本学部の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーは、ホームページに掲載し、教育目標はより具体的な表現を用いて学生募集のための大学案内（パンフレット）にも掲載することで、大学構成員（教職員・学生等）および受験生を含む社会一般に公表している。

〈4〉 医療看護学部

- 1) 本学部の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーはホームページに掲載し、「履修要項」にも明示することで、大学構成員（教職員・学生等）及び社会一般に公表している。
(資料4-1-6 医療看護学部履修要項)

〈5〉 保健看護学部

- 1) 本学部の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーはホームページにより広く社会に公表されているほか、「教育要項」に明示されている。新入生・在学生に対しては、毎年度初めの新入生オリエンテーション・在学生ガイダンスの際、学部長・教務委員長によりポリシーの周知徹底を図っている。

〈6〉 国際教養学部

- 1) 本学部の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーはホームページに掲載し、「教育要項」にも明示することで、大学構成員（教職員・学生等）及び社会一般に公表している。

〈7〉 大学院医学研究科

- 1) 本研究科の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーは、毎年度初めに各講座・研究室にシラバスを配付していることに加え、毎年開催されている医学教育・卒後教育（成田）ワークショップにおいて大学院構成員（教職員・大学院生等）に十分に周知されており、社会に対してもホームページ等により積極的に公表している。
(資料4-1-13 医学教育・卒後教育（成田）ワークショップ資料目次)

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

<8> 大学院スポーツ健康科学研究科

1) 本研究科の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーについては、ホームページに掲載し、大学構成員はもとより、社会に対しても公表されている。

<9> 大学院医療看護学研究科

1) 本研究科の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーは、シラバスに明示し、ホームページに掲載している。研究科長より教授会、大学院説明会、大学院教員のFD研修などの機会にも説明を行っている。これらの方法により、学生・教員・社会への周知が図られている。

(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

<1> 大学全体

1) ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーは教育内容の充実に伴い改訂されるべきものである。教授会・研究科委員会の下部組織である各種委員会での検討を踏まえ、各教授会・研究科委員会での審議を経た後、学長を議長とする大学協議会にて大学全体の視点から定期的に検証を行い、改訂している。

<2> 医学部

1) 本学部の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーについては、教授会、教務委員会、カリキュラム委員会・ワーキンググループ等で検証を行っている。更に、理事長・学長・医学部長・学生・大学院生・臨床研修医・教職員等が参加し毎年開催されている医学教育・卒後教育（成田）ワークショップ等でも定期的に検証を行っている。

<3> スポーツ健康科学部

1) 本学部の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーについては、カリキュラム委員会および教授会で定期的に検証を行っている。

<4> 医療看護学部

1) 本学部の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーについては、毎年、全学年を対象に実施している学生実態調査および卒業試験・国家試験の結果等をもとに、教授会・研究科委員会・カリキュラム委員会で定期的に点検・評価を行っている。その際、本学部の教育目標の達成はもとより、看護系大学協議会、日本看護協会、文部科学省、厚生労働省等の看護教育に関する方針を視野に入れながら検討している。

<5> 保健看護学部

1) 本学部の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーについては、教授会、教務委員会・実習委員会やカリキュラム委員会において協議され、適切性について定期的に検証を行っている。

<6> 国際教養学部

1) 本学部の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーについては、教授会、教務委員会等において協議され、適切性について定期的に検証を行っている。

<7> 大学院医学研究科

1) 本研究科の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーについては、医学研究科委員会、大学院検討委員会等で定期的に検証している。更に、理事長・学長・医学研究

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

科長・学生・大学院生・臨床研修医・教職員等が参加し毎年開催されている医学教育・卒後教育（成田）ワークショップ等でも検証を行っている。

＜8＞ 大学院スポーツ健康科学研究科

1) 本研究科の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーについては、大学院検討委員会において、カリキュラムの体系性、現代性、発展性の議論を通じて定期的な検討を行い、研究科委員会において検証している。

＜9＞ 大学院医療看護学研究科

1) 本研究科の教育目標、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーについては、研究科委員会を中心に、時代の求める学問的・実践的ニーズ、学生のニーズ等から定期的な検証を行い、教育課程の編成、実施方法の見直しを行っている。

2. 点検・評価

[基準4]

大学は、その理念・目的を実現するために、教育目標を定めこれに基づき学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を明示しなければならない。また、こうした方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容と方法を整備・充実させ、学位授与を適切に行わなければならない。

●基準4-1の充足状況

本学は学是「仁」、理念「不断前進」を掲げて、各学部・大学院研究科において、人材養成目的・教育目標を定めている。これらに基づき、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを定め、大学ホームページにて公表している。各ポリシーの内容は、大学協議会、教授会、研究科委員会をはじめ、各種委員会でも定期的に検証が行われている。以上のことから、基準を満たしている。

①効果があがっている事項

＜1＞ 大学全体

1) 各学部・大学院研究科のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーについては、学部・大学院研究科の特性に合わせて細かく明示していたが、2016(平成28)年2月に、大学全体の両ポリシーも制定し、ホームページに掲載した。

＜2＞ 医学部

1) 9項目から構成される医学部コンピテンシーを定め、2016(平成28)年度より運用すべく学生に周知している。

＜6＞ 国際教養学部

1) 教育目標に基づき設定されたディプロマポリシーに則して教育上の成果を上げるため、FD研修会を開催し「国際教養学部設立理念の共有化」を目的とした講演会や教職員による全体討議を通じて、設立理念の共有化を図った。また、教育内容と方法の整備・充実のために4学期制構想タスクフォースを立ち上げ、現行カリキュラムの更なる整備・充実に向けた協議を定期的に行っている。

(資料4-1-14 平成27年度 順天堂大学国際教養学部 FD研修会実施要領)

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

3. 将来に向けた発展方策

①効果があがっている事項

〈1〉 大学全体

1) 2016(平成 28)年 2 月より、大学全体のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに整合するように各学部・研究科のポリシーの見直しを行っており、2016(平成 28)年度始めに、ホームページ上に公表するとともにシラバスなどにも明記し周知徹底を図る。また、2016(平成 28)年 3 月末に文部科学省より『「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマポリシー)、「教育課程編成・実施方針」(カリキュラムポリシー) 及び「入学者受入れの方針」(アドミッションポリシー) の策定及び運用に関するガイドライン』が提示されており、同ガイドラインに示された留意すべき事項に対応した見直しを行い、更なる内容の充実を図る。

〈2〉 医学部

1) コンピテンシーを学生と教職員に理解させ、期待するアウトカムを互いに確認し、各コンピテンシー達成に必要なロードマップなどの検討を行っていく。また、コンピテンシーの達成状況に照らし合わせて、教育方法と評価方法が現状のものでよいか、検討を重ね改善を図っていく。

〈6〉 国際教養学部

1) FD 研修会で共有した内容を実施報告書にまとめ、FD 委員会主導のもと、関連委員会と連携を図り教育内容・方法を整備・充実させていく。また、2016(平成 28)年度より従来の 1 科目週 1 開講から 1 科目週 2 開講のうえ 4 学期制に向けた授業運営を試行的に着手すべく準備を進めている。

第4章 教育内容・方法・成果

1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

4. 根拠資料

根拠資料No.	各部署の資料整理No.	資料名称
資料4-1-1	総務4-1-1	順天堂ホームページ 「情報公開（基本情報）」 「修学上の情報」 http://www.juntendo.ac.jp/about/information/study.html
資料4-1-2	総務4-1-2	順天堂大学学位規程
資料4-1-3	総務4-1-3	医学部教育要項
資料4-1-4	総務4-1-4	スポーツ健康科学部シラバス http://www.juntendo.ac.jp/hss/department/syllabus/index.html
資料4-1-5	総務4-1-5	医療看護学部教育要項
資料4-1-6	総務4-1-6	医療看護学部履修要項
資料4-1-7	総務4-1-7	保健看護学部教育要項
資料4-1-8	総務4-1-8	国際教養学部教育要項
資料4-1-9	総務4-1-9	大学院医学研究科修士課程シラバス
資料4-1-10	総務4-1-10	大学院医学研究科博士課程シラバス
資料4-1-11	総務4-1-11	大学院スポーツ健康科学研究科シラバス http://www.juntendo.ac.jp/hss/postgrad/syllabus/index.html http://www.juntendo.ac.jp/hss/postgrad/syllabus/index_2.html
資料4-1-12	総務4-1-12	大学院医療看護学研究科教育要項
資料4-1-13	院医4-1-1	医学教育・卒後教育（成田）ワークショップ資料目次
資料4-1-14	国教4-1-1	平成27年度 順天堂大学国際教養学部 FD研修会実施要領